

## 世界遺産専攻10周年を迎えて

著者	稲葉 信子
著者別名	Inaba Nobuko
雑誌名	世界遺産学研究
巻	1
ページ	1-2
発行年	2016-03-31
URL	<a href="http://doi.org/10.15068/00137482">http://doi.org/10.15068/00137482</a>

## 世界遺産専攻 10 周年を迎えて

稲葉信子<sup>1)</sup>

所属 1) 筑波大学芸術系

博士課程前期世界遺産専攻、博士課程後期世界文化遺産学専攻長の稲葉信子です。専攻を代表して、専攻が 10 周年を迎えることになりましたお礼のご挨拶、そして今日のシンポジウムの主旨について述べさせていただきます。

今日は、3 連休の初日にもかかわらず、ご参加くださりまして本当にありがとうございます。また今日は文化庁長官にもお出でいただいております、専攻にとって大変名誉なことであると深く感謝申し上げます。長官は筑波大学の教員でおられたこともあり、強いサポートを受けていると感じております。どうもありがとうございます。

世界遺産専攻は 10 年前の 2004 年 4 月に修士の学位を授与する大学院として学生定員 15 名で発足しました。2 年後の 2006 年 4 月に博士後期課程が学生定員 7 名で発足して修士と博士の学位を認定する大学院の体制が整い、これまでに 141 名に修士の学位を、21 名に博士の学位を授与して、社会に送り出してきました。

今年ドーハで開催された世界遺産委員会では、世界文化遺産学専攻で博士の学位を取得したジャマイカからの留学生が、ジャマイカ政府の代表を務めていました。文化庁文化財部にも修了生がお世話になっていますし、遺産保護に限らず、それぞれの選んだ道で活躍していることを誇りに思います。

世界遺産専攻は文化庁の支援を受けて、他にはないユニークな学際的な専攻として、文部科学省から設置の認可をいただきました。世界でも世界遺産の名を冠した専攻は少なく、先輩であるドイツのブランデルブルグ工科大学コットブス校とは提携を結んで学生の交流を行っています。またタスマニア大学とも提携を結ぶべく最終的な手続きの段階に入っています。今日はそれぞれの大学から、シュミット先生そしてロックウッド先生にお越しいただいてお話しをうかがうことになっています。

遺産保護の仕事は、価値の研究から修復・保存管理の仕事、観光そして啓発活動まで多岐にわたっています。これに答えるため世界遺産専攻では、現在 11 人の専任教員が教育にあたっています。文化遺産論、自然遺産論、国際遺産論、保存哲学、建築遺産、都市遺産、美術遺産、文化的景観、観光計画、保存科学から生物学まで、多くの研究領域を用意して教育にあたっています。全く異なる専門領域から来た学生にとっては、まずは既成概念を解体して混乱するところから始まり、しかしそのなかで最終的には苦勞しながら専門知識を習得していく良い経験をしていると理解しています。

4 年前からは文部科学省の特別経費をいただいて英語のみで行う教育プログラム、国際交渉力を養う英語修了証明プログラムを実施し、そして今年からはその発展として、個人の篤志家の方からの寄附講座を運営するチャンスをいただいて、自然保護寄附講座を 5 年計画で開始したところです。

もちろん世界遺産専攻は世界遺産である文化遺産と自然遺産だけを扱っているわけではありませんが、ネーミングの基となっている世界遺産条約が他の条約と違う点は文化と自然の両方をカバーしているところなので、専攻でもこのことは大切に扱っていきたいと考えています。

文化財保護法は天然記念物も、名勝も、文化的景観も扱っていて、自然を文化とともに考える素地はあり、これを日頃から海外でも宣伝しています。これに加えて私は世界遺産条約の仕事をしていますので、自然保護の方とも一緒に仕事をする機会を得てきたことを

感謝しています。今回出席をお願いした奥田さんとは、確か世界遺産委員会で一緒したのが最初だったと記憶しています。

10周年のテーマとして、「遺産教育の現在と未来：文化と自然をつなぐ」というテーマを選びました。文化遺産の側では文化的景観、自然遺産の側では里山の言葉で広がっています文化と自然の境界領域、ここがしっかりしないことには、貴重な文化遺産も厳正な自然も希少生物も守ることができないという考えのもと、これから10年の世界遺産専攻の仕事のありようを、遺産を取り巻く社会とともに考えてみたいというところから出発しています。先週はイコモスの総会がイタリアで、そして世界国立公園会議がオーストラリアで開催されました。これらの大きな国際会議でもそうしたことが話題となっています。

現在、世界遺産委員会の諮問機関であるイクロムとIUCNは、文化と自然を連携する遺産保護の仕事に携わる人々の育成のための総合的なプロジェクトを進めています。そのお話しを、担当しておられるイクロムのWijesuriyaさんに伺いながら、またアジアで危機管理をはじめとするさまざまな分野で活躍しておられるJigyasuさんに、アジアの状況についてお話しを伺いながら、特にアジアにおけるハブ教育機関としての私たちの専攻の今後について、何が求められているか、何をすべきか考えてみたいと思います。